

科目名	Windows演習									
科目名(英)	Windows									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	浦川実子	
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	エアポート科・2年									
授業概要	ビジネスの現場で必要とされるレポートや報告書を、Word・Excel・PPを活用して作成する。 作成時に制限時間を設けることで、ある一定の時間で書類作成ができるようにする。									
授業形式	講義：△			演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
			○			10分間の入力スピードを400字以上にする				
		○				ビジネス文書の基本的な構成を組み立てる				
		○	○			Word・Excel・PPで必要な操作を行い、様々な書式のビジネス文書を作成する				
テキスト・教材 参考図書	・ビジネス文書作成見本(プリント配布)									
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示	
	1	スピード入力／ ビジネス文書(社内文書・社外文書)							入力練習	
	2	スピード入力／ ビジネス文書(表作成)							入力練習	
	3	スピード入力／ 複雑な表(Word編)							入力練習	
	4	スピード入力／ 複雑な表(Excel編)							入力練習	
	5	スピード入力／ 複雑な表(Excel編)							入力練習	
	6	スピード入力／ Excel・Word連携①							入力練習	
	7	スピード入力／ Excel・Word連携②							入力練習	
	8	スピード入力／ Word応用(段組み)							入力練習	
	9	スピード入力／ Word応用(旅程表)							入力練習	
	10	スピード入力／Excel応用(カレンダー管理・シリアル値)							入力練習	
	11	スピード入力／Word応用(申込書)							入力練習	
	12	スピード入力／ Excel応用(グラフ活用)							入力練習	
	13	スピード入力／ Excel応用(見積書作成)							入力練習	
	14	スピード入力／ PP(図解とマスター)							入力練習	
	15	スピード入力／ 最終課題							入力練習	
評価方法	・課題の印刷と提出(15回)									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	スピード入力				◎			10%		
	課題提出(15回)			○	◎			90%		
履修上の注意	作成したデータは毎回USBに保存をする。									

科目名	ビジネスマナー演習B									
科目名(英)	Business Ability Test B									
単位数	2単位			時間数	15時間		担当者	講師未定		
実施年度	2019年度			実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年									
授業概要	幅広い年齢層の方に好まれる接遇を1年生で学んだことを復習しながら、ロールプレイによりコミュニケーション・接遇のスキルを伸ばす。									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
		○				幅広い年齢層に対応できる会話力				
					○	また会いたいと思われる接客を目指す				
	○					接客時の言葉遣い、所作を身に付ける				
		○				お客様の心理・要望を瞬時に汲みとれる				
テキスト・教材 参考図書	実践ビジネスマナー ウイネット									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション・自己紹介								
	2	お客様お出迎え・ご案内								
	3	話の聞き方・話の仕方					様々な方と会話をしよう。			
	4	敬語演習					今日学習した敬語をもう一度復習			
	5	物の受け渡しの仕方								
	6	話の仕方(応用編)								
	7	お茶・コーヒーの出し方					自分または家族などに、お茶を入れてみよう。			
	8	各担当でのお客様対応								
	9	お客様をお見送りする作法								
	10	これまでの復習								
	11	電話をかける					家庭やアルバイト先で、積極的に電話に出よう。			
	12	電話をかける					家庭やアルバイト先で、積極的に電話に出よう。			
	13	様々な電話応対					家庭やアルバイト先で、積極的に電話に出よう。			
	14	後期のまとめ①					苦手なところを見直しましょう。			
	15	後期のまとめ②					苦手なところを見直しましょう。			
評価方法	(1)授業の中で実技テストを2回する。(2)定期試験(筆記)を実施。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	○				70%			
	実技テスト			◎	○		30%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	フィジカルトレーニングB										
科目名(英)	Physical training B										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	講師未定		
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年										
授業概要	前期に引き続き、就業現場での業務上の基盤となる基礎体力の向上と維持及び社会においてのコミュニケーションツールとしてのスポーツを学び、行動力と協調性もあわせて養う。										
授業形式	講義:			演習:		実習:		実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					効果的な身体トレーニングを学ぶ。					
			○			基本的な運動(スポーツ)を行うことができる。					
				○		運動(行動)を通してコミュニケーション力やチームワークを身につけることができる。					
テキスト・教材 参考図書	関連資料プリント等										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	体力の向上と維持—ジムトレーニング							特になし		
	2	体力の向上と維持—ジョギングとそれによる運動効果の理解							運動の準備をしておくこと		
	3	体力の向上と維持—ウォーキングとそれによる運動効果の理解							運動の準備をしておくこと		
	4	体力の向上と維持—バレーボールの基礎習得							運動の準備をしておくこと		
	5	体力の向上と維持—筋力トレーニングとそれによる運動効果の理解							運動の準備をしておくこと		
	6	体力の向上と維持—バレーボール(試合形式)							運動の準備をしておくこと		
	7	体力の向上と維持—ストレッチ運動とそれによる運動効果							運動の準備をしておくこと		
	8	体力の向上と維持—バスケットボールの基礎習得							運動の準備をしておくこと		
	9	体力の向上と維持—筋力トレーニング							運動の準備をしておくこと		
	10	体力の向上と維持—バスケットボール(試合形式)							運動の準備をしておくこと		
	11	体力の向上と維持—フットサルの基礎習得							運動の準備をしておくこと		
	12	体力の向上と維持—ランニングとそれによる運動効果の理解							運動の準備をしておくこと		
	13	体力の向上と維持—フットサル(試合形式)							運動の準備をしておくこと		
	14	体力の向上と維持—バドミントン(試合形式)							運動の準備をしておくこと		
	15	レクリエーションとしてのスポーツ理解							今後の運動計画を立てること		
評価方法	(1)出席率。(2)授業への取組み状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	出席状況							◎			50%
	取組み姿勢							◎			50%
履修上の注意	授業参加10回に満たない場合は単位認定しない。										

科目名	一般教養ⅡB											
科目名(英)	General education ⅡB											
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		瀧口恵子			
実施年度	2019年度		実施時期		後期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	エアポート科・2年											
授業概要	社会人基礎力養成として、2年間の一般教養の授業の総まとめとして、7回＋試験を実施											
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					主な国際機関について、その活動内容を理解し説明することが出来る						
	○					漢字検定2級程度の漢字の読み書きが出来る						
	○					英検準2級程度の問題に解答することが出来る						
	○					四則演算と基礎的なSPI問題に正確に解答することが出来る						
テキスト・教材 参考図書	プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	科目概要説明、第1回(国際機関とその活動、世界遺産)					次回学習部分に目を通しておくこと					
	2	第2回(英文空所補充、英日ことわざ)					テキストの該当部分の復習をしておくこと					
	3	第3回(英文空所補充、SPI問題)					テキストの該当部分の復習をしておくこと					
	4	第4回(漢字の知識、名数、歴史)					テキストの該当部分の復習をしておくこと					
	5	第4回(英文空所補充、SPI問題)					テキストの該当部分の復習をしておくこと					
	6	第5回(漢字の知識、読解問題、経済)					テキストの該当部分の復習をしておくこと					
	7	第6回(漢字の知識、SPI問題、英文和訳)					テキストの該当部分の復習をしておくこと					
	8	試験										
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題や課題 (3)出席状況と授業中の態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎										80%
	出席状況							◎				10%
	宿題・レポート	○						○				10%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、試験受験資格なしとする											

科目名	業界総合演習									
科目名(英)	Industry comprehensive exercise									
単位数	6単位			時間数	90時間			担当者	講師未定	
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	エアポート科・2年									
授業概要	空港従事者としての意識を向上させる。 企業が求める安全運航に対し高い意識と感性を備えた人財を養成する。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				安全、セキュリティの重要性を理解することができる。				
	○	○				現場で求められる人材に必要な業界知識と意識を身につけることができる。				
テキスト・教材 参考図書	特になし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	安全理念								
	2	安全運航の堅持								
	3	作業安全の確保								
	4	セキュリティ関連(PAX、BAG、CGO)								
	5	セキュリティ関連(航空機等)								
	6	会社からの貸与品管理の徹底(確実なロッカーキー施錠)								
	7	ランパス・身分証明書の携行、不審者発見時の通報等								
	8	発生させない日々のプロセス(努力)								
	9	定時性「ON TIME AIRLINE」								
	10	事故発生の仕組み(直接原因)								
	11	事故発生の仕組み(間接原因)								
	12	挨拶について、整理・整頓・清潔・清掃								
	13	足元注意・落下防止								
	14	安全と品質								
	15	復習(安全、セキュリティ、定時性、品質等)								
評価方法	(1)定期試験を実施 (2)宿題や課題 (3)授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				70%			
	課題	◎			○		10%			
	授業態度				◎		20%			
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	空港実務ⅡB										
科目名(英)	Airport Practical business ⅡB										
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	講師未定				
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	エアポート科・2年										
授業概要	前期の内容の復習も兼ね、引き続き、空港従事者としての基礎知識を深め応用力を習得する。										
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△					
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				特殊車両の車両名及び用途を理解し、説明することができる。					
	○					ULDの種類及び形状の理解することができる。					
	○					空港専門用語を習得することができる。					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)① ブレーキマン作業一般(B767)									
	2	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)② ブレーキマン作業一般(B747)									
	3	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)③ ブレーキマン作業一般(B777)									
	4	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)④ ブレーキマン作業一般(B787)									
	5	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)⑤ ブレーキマン作業一般(B320)									
	6	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)⑥ ブレーキマン作業一般(B321)									
	7	ランフィン(ブロックイン)／ランフアウト(ブロックアウト)⑦ ブレーキマン作業一般(B737)									
	8	航空機地上支援器材 応用編① マーシャラーカー、トーイングカー									
	9	航空機地上支援器材 応用編② 電源車									
	10	航空機地上支援器材 応用編③ ハイリフトローダー、ベルトローダー									
	11	航空機地上支援器材 応用編④ トーイングトラクター、ドーリー、カート									
	12	航空機地上支援器材 応用編⑤ リフト車									
	13	航空機地上支援器材 応用編⑥ スノーバー									
	14	航空機地上支援器材 応用編⑦ キャビンサービスカー									
	15	航空機地上支援器材 応用編⑧ レフェーラー、サービサー									
評価方法	(1)授業の中で理解度テストを2回実施する。(2)実技及び口頭質問を数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	○				70%				
	理解度テスト	◎	◎				10%				
	実技及び口頭質問	○	○	◎			20%				
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	実用英語ⅡB				
科目名(英)	Practical EnglishⅡB				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	講師未定
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	エアポート科・2年				
授業概要	前期に引き続き、復習をベースにTOEIC350～400に必要な英語の基礎を学ぶ。基本的な文法の知識の確認を行うと共に、比較的簡単な長文の読解を目指す。音読練習も加えたリスニング練習を反復的に行うことで、資格試験のみならず、日常会話に必要な力も伸ばしていく。				
授業形式	講義：○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○				
	○				
	○				
	○				
テキスト・教材 参考図書	新TOEICメガ模試、TOEIC TEST新形式精選模試リーディング・リスニング				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	授業の説明・単語解説			単語テストに向け該当箇所を覚える
	2	リスニング(Part 1 人物動作)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	3	リーディング(Part 5 時制)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	4	リスニング(Part 1 物の位置の表現)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	5	リーディング(Part 5 品詞)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	6	リスニング(Part 2 疑問文)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	7	リーディング(Part 5 代名詞)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	8	リスニング(Part 2 様々な答え方)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	9	リーディング(Part 5 接続詞)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	10	リスニング(Part 3 ビジネス会話)			復習テストに向け勉強
	11	リーディング(Part 5 イディオム)			復習テストに向け勉強
	12	復習テスト			単語テストに向け該当箇所を覚える
	13	リスニング(Part 3 ビジネス会話)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	14	リーディング(Part 7 広告・入力フォーム)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	15	リスニング(Part 3 図表問題)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	16	リーディング(Part 7 チャット)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	17	リスニング(Part 4 アナウンス)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	18	リーディング(Part 7 ビジネスレター)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	19	リスニング(Part 4 図表問題)			単語テストに向け該当箇所を覚える
	20	リーディング(Part 7 Double/Tripleパッセージ)			復習テストに向け勉強
	21	復習テスト			間違った問題をやり直す
	22	TOEIC模試① Part 1 / 2 / 7 (Single)			間違った問題をやり直す
	23	TOEIC模試① Part 3 / 7 (Double)			間違った問題をやり直す
	24	TOEIC模試① Part 4 / 5 / 6			間違った問題をやり直す
	25	TOEIC模試② Part 1 / 2 / 7 (Single)			間違った問題をやり直す
	26	TOEIC模試② Part 3 / 7 (Double)			間違った問題をやり直す

	27	TOEIC模試② Part 4/ 5 / 6	間違った問題をやり直す				
	28	TOEIC模試③ リーディング100問	間違った問題をやり直す				
	29	TOEIC模試③ リスニング100問	正試験に向けた復習				
	30	前期のまとめ	正試験に向けた復習				
評価方法	(1)授業の中で復習テストを2回実施する。(2)単語テストを9回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	単語テスト	◎					10%
	復習テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名	社会教養ⅡB											
科目名(英)	Social Study ⅡB											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		三苫秀一郎		
実施年度	2019年度			実施時期		後期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	エアポート科・2年											
授業概要	社会人としての基礎知識や自己管理能力の必要性を考える機会とする。ストレス管理や体力維持、集団行動力を、スポーツや実体験を通して学ぶ。また、文化的体験や産業観光などを通して、福岡の観光資源の分析を行い、業界で働く上での知識の向上を図る。											
授業形式	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○		○		社会人として必要な自己管理能力を向上することができる。						
				○		集団行動を通して、リーダーシップ力や協調性の理解を深めることができる。						
			○	○		スポーツを通して、ストレス管理や体力維持の必要性を体感する。						
	○	○				産業観光や文化的体験を通して、福岡の観光資源を学び、説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	特になし											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	授業概要、スケジュール説明、目標設定										
	2	集団での役割 ～脳トレやプレゼンテーションゲーム～										
	3	社会人としての基礎知識						復習をしておくこと				
	4	ストレス管理と体力向上～体を動かすゲーム～										
	5	ビジネスマナークイズ						ビジネス実務等で学んだことを復習してから臨むこと				
	6	社会科見学～防災センター～										
	7	福岡の観光資源～太宰府天満宮周辺散策とリサーチ～						リサーチ内容をまとめておくこと				
	8	福岡の観光資源～太宰府天満宮周辺散策とリサーチ～						リサーチ内容をまとめておくこと				
	9	産業観光～アサヒビール工場見学～						リサーチ内容をまとめておくこと				
	10	プレゼンテーション～福岡の観光資源～						プレゼンテーションの準備をしておくこと				
	11	ストレス管理と体力向上～球技～										
	12	ストレス管理と体力向上～球技～										
	13	アイススケート体験										
	14	アイススケート体験										
	15	社会人研修										
評価方法	(1)出席状況(90%以上) (2)態度意欲											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	出席率							○				80%
	態度・意欲							○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	卒業研究									
科目名(英)	Graduation research									
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	講師未定		
実施年度	2019年度			実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	エアポート科・2年									
授業概要	2年間で学んだ航空業界における知識をもとに、それぞれのテーマに沿った研究を行うことで、業界理解を深める。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		効果的なパワーポイントを作成することができる。				
	○	○		○		訴求力のあるプレゼンテーションをすることができる。				
テキスト・教材 参考図書	特になし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	過去の作品の紹介(自己紹介・地元紹介)、作成スケジュール確認								
	2	自己紹介、地元紹介のタイトル、内容決定								
	3	内容の詳細確認・修正構成								
	4	情報収集、内容の詳細確認・修正・構成								
	5	情報収集、パワーポイント作成方法確認								
	6	パワーポイント(自己紹介・地元紹介)作成、情報収集								
	7	プレゼンテーションリハーサル、効果的な発表方法								
	8	作品プレゼンテーション(自己紹介・地元紹介)、まとめ								
	9	過去の作品の紹介(業界・仕事)、作成スケジュール確認								
	10	業界、仕事をテーマとしたタイトル、内容決定								
	11	内容の詳細確認・修正構成								
	12	情報収集、パワーポイント作成方法確認								
	13	パワーポイント(業界・仕事)作成情報収集								
	14	作品プレゼンテーション(業界・仕事)								
	15	まとめ								
評価方法	(1)パワーポイントの作成 (2)発表内容 (3)授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	パワーポイント		◎		○		20%			
	発表内容	◎	○		○		70%			
	授業態度				◎		10%			
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									